

自動車部

穴倉 正胤, 佐藤 恒信, 太田 詔, 岡山 大, 諫田 朋佳

現在の自動車部は正式には2代目である。

初代の自動車部以前に同好会的組織があり、ラリー競技を主催していた。

1953年卒の越田穆先輩、1962年卒の勝田貞夫君等を中心として演劇部の部員達がオフィシャルで何回かのラリー競技が開催された。

1962年12月、日独薬品後援でJCEラリー（詳細不明）が大学の山中寮を起点として麓坂峠、須走、その周辺で開催された。1963年6月には第1回房総ドクターラリーと称して房総半島を巡るコースで行なわれ、以後毎年開催され1967年6月の第5回迄行なわれた記録がある。また、当時NDC（日本ダットサンクラブ）の主催で房総サファリーラリー、海外で有名だったアフリカサファリーラリーに因んでのラリーで、徹夜で鹿野山周辺、マザー牧場周辺の未舗装の荒れた道（当時日本では舗装された道は少なかった）をかなりの指定速度で走らされたことも何回あった。

当時の日本の4輪のモータースポーツはラリー競技が主であった。日本で最初の本格的サーキットとして1962年に鈴鹿サーキットが完成し、1963年5月に同サーキットで第1回日本グランプリが開催された。1965年には船橋に船橋サーキットができ、越田先輩、勝田君、小生穴倉がここでいわゆるA級ライセンスを取得した。

初代の自動車部は1967年卒の鈴木一郎君、高田功君等が中心になって1963年頃に創られ、正式な部として認められた。この活動の詳細は不明だが、大型免許を取得するのが目的で京成バス（勿論ボンネットバスで5万円で払い下げてもらったと聞いている）を現在看護学部の校舎のあるグラウンドに駐車させ部室としても使っていた。当時法医学の宮内教授の旧制水戸高校時代の友人が京成電鉄の社長の川崎さんだったのでその伝で購入できた。ただこのバスで練習して大型免許を取ったという話は聞かなかった。その後初代の自動車部がどうなったか詳らかでない。

（ししくら まさたね）

現在の自動車部は、1980年入学（卒業年はばらばらであるが）の井上雅裕、須賀喜一、森永達夫、結城

崇夫の諸先輩らが、当時第二解剖学の助手であった1979年卒の龍岡穂積先輩の賛同を得て、1983年に再興された。初代顧問は龍岡先輩にお願いした。その後1988年卒の柿澤公孝、佐藤恒信、志村仁史、杉浦敏之、徳山竜彦君が入部し、競技会を主催できるまでに成長した。

東医体にはモータースポーツ部門がなく、代わりに東京近辺の医学部・歯学部・薬学部の自動車部が集まって関東医歯薬連盟を結成し、各大学持ち回りで年5・6回のダートトライアルの競技会を開いていた。

千葉大もこの連盟に所属し、連盟戦競技会の一戦として、1984年から86年まで、「CMRT（Chiba University Medical Department Racing Team）ダートトライアル」競技会を主催した。モータースポーツ誌「プレイドライブ」に掲載要項を掲載し、近辺のショップやディーラー、製薬会社にも協賛してもらい、参加者100人を超える競技会を3年連続で開催することができた。また、廃車となった2台のスターレット（KP61）の使える所を組み合わせで1台の車にしたてて正式に車検を取り、部員で共有して練習を行った他、部員個人の車を競技用に改装し、おのおの誘い合って未舗装の林道や河川敷、サーキット（筑波）で練習に励んだ。那須方面での合宿も行われた。

競技参加は、医歯薬連盟戦のみならずJAF公認競技への参戦も行われ、各々連盟戦優勝や公認競技入賞の戦績を残した。

（さとう つねのぶ）

この頃、部員、OBのJAF競技ライセンス所持者が10名を越え、1987年JAF公認チーム準加盟クラブ“イノハナレーシングチーム（INOHANA RT）”を設立し、責任者には初代自動車部との関連も深い1962年卒の穴倉正胤先輩にお願いした。無くなっていた部車も導入（S54年式TE71スプリンターGT）され、車を持たない部員の練習に役立っていた。イノハナレーシングチームとしての活動は、現役部員の減少に伴いライセンス所有者が減り、残念ながら3年間で休止せざるを得なくなったが、1989、90年には、再び医歯薬連盟の一戦としてジムカーナ競技会



「CMRTチャレンジ・ザ・ジムカーナ」を主催した。この際はプレイドライブ誌に加え、オートメカニク誌、カーグラフィック誌に開催概要を掲載し、かなり広い範囲の参加者を募ることができた。部活動もダートトライアル、ジムカーナに加え、レーシングカートを行う部員もあり、多様化していた。引き続き医歯薬連盟戦、JAF公認競技への参戦も行われ、入賞や、表彰台の一角へ食い込むこともあった。

ここで、部室の変遷、車の整備に関することに触れる。

1983年、部の発足当時には部室はなかった。当時は構内の駐車場に余裕があり、構内の一角を使用していたが、夜間の整備や近隣への配慮から、現在の場所に部室を設けていただいた。少しずつジャッキやウマなどの工具を買いそろえたが、地面は未舗装の土のままで、雨が降るとぬかるみ、ウマが沈み込んでしまい快適な整備環境ではなかった。その中でもエンジンを交換できるように鉄パイプを組んだタワーを自作したりして、より高度な整備に対応できるように整えていった。整備内容としては、JAF公認戦出場を目指し、公道も走行するため、車検に通る範囲での改造と破損箇所の修復が中心だったが、安全装備や足回りはできるだけきちんと整備するようにしていた。ダート練習中の車両転倒などは少なからずあったが、誰一人怪我することなく活動できたのは、決して幸運だっただけではなく、日ごろの整備の賜物と思う。

(おおた しょう)

その後、亥鼻地区の駐車場整備の都合で、自動車部占有面積は大幅に減少されたものの、アスファルト舗装された敷地となり、車2台の入るガレージもでき、整備環境もかなりよくなった。この過程では

大変な出来事があった。当時未舗装の自動車部敷地には、放置自動車（歴代の部員の遺物？）が多数あり、雑草も伸び放題で荒れていたため、活動をしていないと見られ、自動車部敷地がすべて大学の駐車場にされそうになった。そこで校内に反対抗議のビラを貼って、自治会とともに抗議および話し合いを繰り返し行った結果、現在の形に落ち着いたのである。この話し合いの過程で、疎になってしまっていたOBとのつながりや、現役部員内の意識の向上がなされ、部としての体質強化につながったのは思わぬ副産物であったといえよう。

また、ガレージができたおかげで、整備が夜間や雨天でも可能となり、長時間整備を何日かにわたって行えるようになった。

(おかやま だい)

現在の自動車部

2004年より顧問を法医学教室の岩瀬博太郎教授にお願いしている。

旧型のロードスター（NB8）が部車として存在し、部員の練習台として活躍している。最近の話題としては、2009年9月、大学からも非常に近い袖ヶ浦に新しくオープンした「袖ヶ浦フォレストレースウェイ」で2010年8月に開催されたECO耐久レースに、OB現役混成部隊が出場し、最高燃費賞を獲得した。

現役学生部員は18名（医6…小柳・高・金子・菅原・加藤・田中、医5…諫田（部長）・白根・橋本・池内・川合・仲野・白石、医3…今本、医2…湯本・ペエ、看3…田近、看2…西村）で、主に袖ヶ浦サーキットで運転技術を磨き、ガレージにて自車や部車の整備に取り組んでいる。

歴代部長

1986卒	井 上 雅 裕
1988卒	須 賀 喜 一
1987卒	森 永 達 夫
1988卒	志 村 仁 史
1989卒	皆 川 真 規
1993卒	太 田 詔
1993卒	藤 本 義 英
1994卒	宮 本 佳 明
1995卒	大 島 忠
2000卒	木 納 賢
2002卒	中 島 正 之
2004卒	岡 山 大



ガレージにて部車を囲む。(写真上段左より今本,小柳,湯本)
(下段左より白根,池内,白石,高,諫田,田近,加藤,田中,菅原,川合,仲野)

2006卒 多羅尾 健太郎
2007卒 石 橋 亮 一
2008卒 岩 佐 景一郎

2011卒 小 柳 剛
現 役 今 本 拓 郎 (前部長)
現 役 諫 田 朋 佳 (現部長)
(かんだ ともよし)